

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720284

研究課題名(和文)日本人とコーヒー生産をめぐる国際移動とネットワークに関する歴史学的考察

研究課題名(英文) Inter-Imperial Network in the Pacific: A historical study on migrations of Japanese people and coffee

研究代表者

飯島 真里子(Iijima, Mariko)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：10453614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦前台湾コーヒー栽培の発展において「帝国間ネットワーク」が重要な役割を担ったことを明らかにした。このネットワークを通じて、コーヒー木や技術が米国帝国準州ハワイから日本統治下台湾へと伝播し、その背景にはハワイでコーヒー栽培に従事していた日本人の移動が深く関わっていたことがわかった。既存の日本帝国史研究や移民研究が日本帝国内もしくは帝国外への移動を重点的に扱ってきたのに対し、本研究では、帝国と帝国の境界を越えた移動とネットワークの生成に着目した。それにより、戦前の環太平洋地域の人・モノ・技術・知・資本の移動の多方向性と複雑性の一部を解明できたことに意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research project demonstrates how the inter-imperial network contributed to the development of coffee production in Taiwan during the Japanese occupation. The inter-imperial network played a significant role in transporting coffee plants and production skills into Taiwan, a part of the Japanese Empire, from Hawai'i under the control of the US Empire. It also proved that the movements of Japanese people who were involved in coffee farming in Hawai'i helped establish this network.

This research attempts to provide a new perspective in the fields of Japanese Imperial History and Immigration History. Both historical studies oftentimes examine movements within or to the outside an empire, whereas movements between one empire to the other empire have been rather disregarded. Therefore, by focusing inter-imperial network, this research has revealed multi-directional and trans-imperial migrations of people, skills, knowledge and capital in the pre-war Pacific region.

研究分野：歴史学

キーワード：コーヒー栽培史 帝国間移動 ハワイ 台湾 日本人移民史 アジア太平洋 ネットワーク ディアスポラ

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦前日本をめぐる人の国際移動研究：

戦前の人の国際移動は、大別して、日本帝国勢力圏内の移動を扱う帝国・植民地研究と、非勢力圏への移動を扱う日系人研究の分野から研究が長らくなされてきた。しかし、日本帝国勢力圏内と圏外の移動に関する研究はほとんどなされていない。よって、両地域を跨ぐ・繋ぐコーヒー生産の伝播とそれに関わった日本人の移動に注目することにより、戦前日本における国際移動研究の架け橋的な研究ができると認識するに至った。

(2) アジア太平洋地域を射程としたグローバル・ヒストリー：

特定の勢力圏（国民国家、帝国と植民地）の枠組みを超えた研究分野の一つにグローバル・ヒストリーが挙げられる。コーヒー研究においても、Pendergrast, Clarence-Smith, Topik らが、コーヒー生産の地域を越えた伝播に注目し、その世界規模の経済社会的影響に関する研究を行ってきた。しかし、これらの研究者が主に取り扱っている対象地域はアメリカ大陸に集中しており、アジアに関する詳細な調査は欠落しているといえる。戦前日本人移民がコーヒー生産において果たした役割を考慮すると、コーヒーのグローバル・ヒストリーを理解するにあたり、アジア太平洋地域におけるコーヒー産業の歴史の解明が必要であると認識した。

2. 研究の目的

(1) 日本帝国勢力圏内・圏外間ネットワークの実証的解明：

戦前日本帝国圏外地（本研究対象地：ブラジル、ハワイ）と内地（台湾、南洋群島）において日本人移民が栽培したコーヒー（いわゆる植民地作物）の伝播によって形成されたネットワークの生成過程を明らかにする。

(2) 大農園型コーヒー生産が有する植民地性の解明：

(1) のネットワークによってもたらされたコーヒー産地の社会・経済・人種・民族構造を、日本帝勢力圏内と圏外の産地の状況との比較検討を通じて明らかにする。

(3) 植民地経験の経験と記憶：

植民地経済活動としてコーヒー生産が、コロニアルな記憶・歴史として後継者へ受け継がれたプロセスをインタビューとフィールド調査を中心に考察する。

3. 研究の方法

(1) 先行文献調査：

すでに、日本帝国史や日系人研究の先行研究に関してはおおむね把握しているため、本研究ではグローバル・ヒストリーの先行研究の把握に努めた。特に、コーヒーに関係のある「食」の歴史に関する研究書、論文を収集

し、近年の動向を探った。

(2) 史料収集：

(1) の先行文献調査と分析から、19 - 20 世紀のアジア太平洋地域を中心据えたグローバル・ヒストリーの研究が希薄であることから、アジアのコーヒー栽培史に関する史料収集を行った。具体的には、平成 25 年度に UCC コーヒー博物館（神戸）と京都大学農学部図書室を訪れ、日本帝国旧植民地史料や日本のコーヒー栽培史に関する資料を収集した。

(3) 台湾コーヒー産地での現地調査と聞き取り調査：

(2) の資料収集の過程で、日本統治下の台湾コーヒー産業の形成過程の解明が、本研究が目的とする日本帝国勢力圏内・圏外を結ぶネットワークを実証的に解明するのに重要であることがわかった。よって、戦前台湾のコーヒー産地の一つであり、近年コーヒーフェスティバルなども積極的に開催している古抗を訪れ、現地調査と聞き取り調査を行った。

(4) 国際研究会への出席と発表

グローバル・ヒストリーに関する国際研究会へ積極的に参加した。具体的には、平成 25 年 9 月にはオックスフォード大学で行われた国際ワークショップ『New Directions in Global History』に参加し、ヨーロッパにおけるグローバル・ヒストリーの最新の動向を把握した。また、平成 26 年 9 月には同じくオックスフォード大学で行われた国際会議『The 3rd Global Conference on Food』で台湾のフィールド調査をもとにした発表（査読有）を行った。さらに、平成 27 年 3 月には南カリフォルニア大学で行われた国際シンポジウム『The Transpacific Convergence』にて本研究成果をもとにした発表（招待）を行った。以上、ヨーロッパ、アメリカで行われた国際研究会に積極的に参加し、発表をおこなうことで、本研究をグローバルな視点から位置づける試みを行い、研究成果の見直しと今後の研究の発展の可能性について検討した。

4. 研究成果

(1) 環太平洋地域における Inter-imperial network（間帝国ネットワーク）に関する実証的研究：

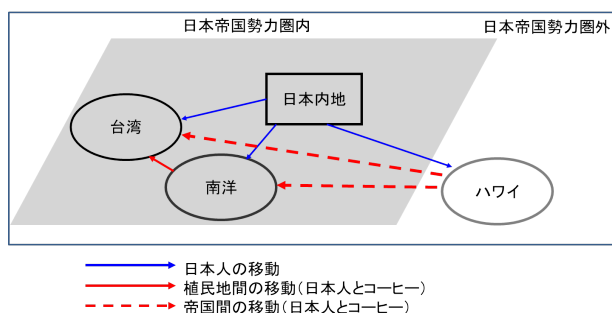
本プロジェクトでは、戦前のハワイ・南洋・台湾間をめぐる移動を重点的に調査した。具体的には、ハワイに移住した日本人の一部が日本帝国統治下となった台湾・南洋へ拠点を移し、コーヒー生産の伝播と産業としての発展に従事したことを明らかにした。

以上の実証例により、異なる帝国の支配下にある植民地（ハワイ = 米国帝国、台湾・南洋 = 日本帝国）間のヒト・植物（コーヒー）・

栽培技術の移動が存在していたことが解明された。それを Inter-imperial network (間帝国ネットワーク、図 1 参照) とし、その生成の背景には、日本帝国勢力圏内外を問わず、アジア太平洋地域に散らばっていた日本人ディアスポラの存在が大きく影響していたこともわかった。つまり、日本人ディアスポラが繋いだ環太平洋地域の移動経路は、帝国が規定した地理的制限にとらわれないことも状況もあったといえる。

また、台湾コーヒー栽培史に関する資料調査の際、台湾における砂糖の栽培やパイナップルの栽培・缶詰加工についても、ハワイから移住していた日本人が深く関わっていたことがわかり、今後は本プロジェクトの研究成果を活用して、さらに Inter-imperial network の実証的解明をめざす予定である。

図 1：戦前のアジア太平洋地域をめぐる移動 日本人とコーヒー



(2) アジア太平洋地域をめぐるコーヒー生産史の解明：

これまでコーヒーの栽培史は、ヨーロッパ諸帝国の植民地化の歴史の一部として語られる傾向が強かった。同様に、アジア太平洋地域においても、欧米帝国・日本帝国の支配下に置かれた亜熱帯植民地・委任統治領においてもコーヒーは植民地作物として生産されていた。しかし、その樹木・栽培方法の伝播、コーヒー産業経営についての研究はほぼ行われてこなかった。

本研究で明らかになったことは、日本国内における食文化の「西洋化」に伴い、1920年代頃からコーヒーの消費が増加し、台湾を「国産コーヒー」の栽培地とし、海外からの輸出を阻止しようという動きがあったことである。また、日本帝国にとってコーヒー資産は、米生産とは異なり、これまで栽培の歴史が浅い農作物であった。よって、台湾でのいくつかの農業試験場では、日本人が移民としてコーヒー生産に従事していたブラジルやハワイ、また当時最も日本に輸入されていたジャワからコーヒー木を取り寄せ、様々な品種を試験的に栽培した。よって、台湾は、複数の欧米帝国からのコーヒー木や技術が集結した場として捉えることが可能となり、アジア太平洋地域が欧米アジア諸帝国の複雑な絡み合いの一部をあぶり出すことがで

きると考える。

(3) 亜熱帯農作物の大農園型生産と植民地化：

多くの場合、帝国の亜熱帯植民地では、その風土的特徴を生かし、特定の作物を大量に生産する大農園形式が取られた。そこでは、多くの場合、土地が先住民から取りあげられ、現地住民 (先住民を含む) 及び非白人系移民が労働力を提供し、現地社会底辺に位置づけられた。

ハワイから台湾に渡りコーヒー農園を経営した日本人も、ハワイでは「移民」として社会の周辺に位置していたが、台湾では先住民を労働者として雇用する「支配者」となり、現地社会における地位の逆転現象が明らかになった。さらには、今後「人種」の視点を取り入れることによって、植民地における亜熱帯植物の大規模生産が、アジア太平洋地域の階級創出にどのような影響を与えたについて検討したい。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 2 件)

Mariko Iijima, “Japanese Diasporic Network beyond/across the Imperial Borders: Coffee Production in the Asia-Pacific Region before World War II” International Symposium on Transpacific Convergence: Studying Nikkei and Race in the U.S. and Japan (University of Southern California, USA), 23 March 2015. (招待)

Mariko Iijima, “Coffee Production in Colonial Taiwan: The Establishment of a Diasporic Network between the Inside and Outside of the Japanese Empire” 3rd Global Conference: Conference on Food (Oxford), 18 September 2014. (査読有り)

[図書] (計 2 件)

飯島真里子「北米地域への日本人移民—アメリカ本土・ハワイ・カナダの移住経験を比較して」上智大学アメリカ・カナダ研究所編『北米研究入門—「ナショナル」を問い直す』SUP 上智大学出版、2015。

飯島真里子、「北米への人の移動」吉原和男、蘭信三他編『人の移動事典 日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版、2013、18 - 19。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://marikosiiijima.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯島真里子 (IIJIMA, Mariko)

上智大学・外国語学部英語学科・准教授

研究者番号：10453614

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：